

質問 岩井議員（自民 大垣市）令和8年3月18日（水）

1 りふ農業活性化基本計画における「楽しい農業・儲かる農業」の実現に向けた取組について

(1) 担い手確保・生産強化のための農地整備について

答弁 知事

本県におきましては、今後、農業従事者の急速な減少が見込まれておりまして、従来型の農業の延長では、本県が有する広大な農地の潜在力を十分に発揮できなくなることが懸念されるところでございます。

こうした中、新たに策定いたします「りふ農業活性化基本計画」では、専業を基本とする大規模経営体と、兼業や副業など多様な形で農業に参画する方々が共存する「ハイブリッド型」の農業へ転換することとしております。ここは先ほど、議員からご指摘いただいたとおりでございます。

具体的には、アグリパーク構想によりまして農業参入の機会を拡大し、農業従事者の裾野を広げてまいります。一方で、農産物の安定供給の観点からは、地域農業の大部分を担います大規模経営体の経営を安定させることが必要でございます。このため、生産性の向上につながる農業生産基盤の整備も着実に進めてまいります。

県では現在、28地区で「ほ場整備事業」を実施しており、整備が完了した地区におきましては、農地の8割以上が大規模経営体に集積され、大型の農業機械やスマート農業機械の導入が進んでおります。加えて、水稻の、米ですね。裏作としてキャベツやブロッコリーなどの高収益作物が栽培されるなど、経営規模の拡大や生産コストの低減、農地の有効活用により収益性が向上し、安定した農業経営につながっております。

しかしながら、本県の農地の整備率でございますが、全国平均に比べて約15ポイント低い54%、さらに農地集積率は約18ポイント低い43%となっております。また、10年後の地域農業の将来像を描く「地域計画」において、担い手が確保されていない農地が約4割となるなど、基盤整備の遅れにより良好な営農条件が確保されず、農地の集積や効率的な農業生産、担い手の確保などに支障を来しているところでございます。

このため、新たな基本計画のもと、「担い手の確保」と「生産力の強化」につなげる効果の高い基盤整備に取り組んでまいります。

まず、「担い手の確保」につきましては、「ほ場整備事業」の実施にあたりまして、大規模経営体が継続して農業経営を行えるよう、農地中間管理機構を通じて、長期にわたり利用する権利を設定した農地を優先的に整備してまいります。

また、建設業者の農業参入を後押しするため、「地域計画」で担い手に位置付けられた建設業者が、農政部発注工事の入札で加点評価される仕組みを本年4月から導入してまいります。

なお、新たな担い手の確保につながります「アグリパーク構想」の推進に必要な農地や用排水路ですね。用水路と排水路といった営農条件を改善するため、市町村などの関係機関と連携いたしまして、きめ細かな基盤整備も支援してまいります。

次に、「生産力の強化」につきましては、スマート農業機械の導入による農作業の効率化や省力化による生産コストの低減のため、農地の「区画拡大」や「農道の拡幅」などの整備を引き続き進めてまいります。

さらに、「区画拡大」を加速させるため、意欲のある担い手自身が主体となって行います「畦の撤去」や「暗渠排水の設置」などの簡易な基盤整備を支援できる仕組みを、新たに構築してまいります。

最後に、国においては、本年度から5年間で「農業構造転換集中対策期間」と位置付け、別枠予算を確保し、農地の大区画化などを進める方針が示されております。

こうした国の動向を踏まえまして、岐阜県としましては、この期間内に国費を有効に活用しつつ、「楽しい農業・儲かる農業」の実現に向け、担い手の確保と生産力の強化につなげる基盤整備に全力で取り組んでまいります。

担 当 課 農地整備課

電話番号 058-272-8468

メ ー ル c11431@pref.gifu.lg.jp